

ユーザーズ・マニュアル

_AUDIOFUSE

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャルサンクス

ディレクション

Frederic Brun

Adrien Courdavault

Nicolas Dubois

エンジニアリング

Pierre Demouveaux

Pierre Pfister

J er me Laurent

Mathieu Nocenti

Philippe Wicker

マニュアル

Adrien Courdavault

Germain Marzin

Vincent Le Hen

Jose Rendon

J r mie Weber

Craig Anderton

Jimmy Michon

Gala Khalife

Morgan Perrier

Minoru Koike

Charlotte M tais

Holger Steinbrink

デザイン

Frederic Brun

Daniel Vester

Glen Darcey

Fabien Deboves

Morgan Perrier

S bastien Rochard

  ARTURIA SA – 2021 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルに記載されている情報は予告無しに変更される場合があります、Arturia側の関与を意味しません。本マニュアルに記載されているソフトウェアは、ライセンス契約、または非公開契約の条項の下に提供されています。ソフトウェア使用許諾契約書には、合法的な使用の条件が規定されています。本書のいかなる部分もARTURIA S.A.の書面による明確な許可なく購入者の個人的な使用以外のいかなる形態、またはいかなる目的でも複製、送信することはできません。

本マニュアルで引用されているその他の製品、ロゴ、会社名はそれぞれ所有者の商標、または登録商標です。

Product version: 1.2.3

Revision date: 9 April 2021

Arturia AudioFuseをお買い上げいただきまして誠にありがとう ございます！

親愛なるミュージシャンの皆様

AudioFuseは、革新的な次世代のプロオーディオインターフェイスで、音質、クリエイティブ なプロダクション、そして価値の新しい基準を設定します。ハイエンドのアナログ・スタジオ コンソールの優れたサウンドと堅牢なモバイル・インターフェイスの柔軟性、そしてあらゆる レコーディングやパフォーマンスに必要なすべての接続性を融合しています。



AudioFuseは、DiscreteProテクノロジーに基づいた非常にハイクオリティのオーディオ・プリ アンプが搭載されています。

AudioFuseは、あらゆる可能性、ギア、フォーマットと繋げることが可能です。

AudioFuseは、どんな状況下でもあなたのクリエイティブ・フローを保つために頼りになる 堅実な礎となります。

安全にご使用いただくための注意

注意事項には以下のものが含まれますが、これらに限定はされません。：

1. 取扱説明書を良く読んで、理解してください。
2. デバイス本体に表示されている指示に従ってください。
3. デバイスや周辺機器を清掃する場合は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. デバイスを浴室やキッチン、プールなど水気が多い湿った場所で使用しないでください。
5. デバイスを落下の危険性がある、不安定な場所に置かないでください。
6. デバイスの上に重いものを置かないでください。デバイスの凹みを埋めたり、穴や隙間を塞がないで下さい。これらは、加熱から本体を守るための空気循環用のものです。また、デバイスを発熱体の近くや、風通しの悪い場所に置かないで下さい。
7. 火気や感電の原因となるものは、絶対に開けたり、入れないでください。
8. いかなる液体もデバイスに吹き付けたりこぼさないでください。
9. 修理の際は正規サービスセンターに持ち込んで下さい。自身で蓋を開けたりカバーを開けると、保証の対象外となります。不正な調整は、故障や事故の原因になります。
10. 雷発生時には、デバイスを使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. デバイスを直射日光に当てないでください。
12. ガス漏れが発生している場所付近でデバイスを使用しないでください。
13. 本機のファームウェアをアップデートする際は、事前にスピーカーやヘッドフォンを本機からオフにするか、取り外してください。
14. 本機のファームウェアをアップデートされた後は、Speaker CueとMonoボタンを押しながら電源をオンにすることで、本機を工場出荷時の状態にリセットしてください。
15. Arturiaは本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失にも責任を持ちません。

仕様変更について：

本マニュアルに含まれる情報は、印刷した時点で正しいと思われるものです。しかし、Arturiaは仕様更新に伴う内容の変更、修正等を事前の告知なく行う場合があります。

重要：

本機は、ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る場合があります。そのような大音量や不快に感じるほどの音量で長時間本機を操作、演奏しないでください。難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに専門家の診断を受けてください。

注意：

知識の不足による、（製品が設計通りに動作している場合）誤った操作から発生する問題に対するサポートは、保証の対象外となり、料金が発生します。まずこのマニュアルを熟読し、販売店とご相談の上、サポートを要求することをお勧めします。

もくじ

1. 概要.....	2
2. ハードウェアの特長.....	4
2.1. 仕様.....	4
2.2. について.....	7
3. はじめに.....	11
3.1. 電源を入れる.....	11
3.2. オペレーティングシステムの設定.....	12
3.3. 入力と出力.....	15
3.4. ミキサーとルーティング.....	24
3.5. USBオーディオ・マッピング.....	26
3.6. クロック・シンクロナイゼーション.....	27
3.7. リアンプング.....	28
3.8. トークバック.....	29
3.9. MIDIインターフェイス.....	29
3.10. AudioFuse Control Center.....	30
3.11. スイッチ.....	31
3.12. 工場出荷時の設定にリセットする.....	32
4. AudioFuseを使用する.....	33
4.1. インサートに外部エフェクトを使用する.....	33
4.2. マイクを使用したレコーディング.....	34
4.3. ギターやその他の楽器のレコーディング.....	35
4.4. フォンの1つをキューに、1つをメインに使用する.....	36
4.5. 2組のスピーカーを切替えて使用する.....	37
4.6. コンピューター無しでAudioFuseを使用する.....	38
5. ソフトウェア使用許諾契約書.....	40
6. Declaration of Conformity.....	43

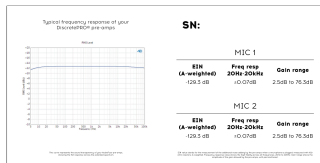
1. 概要

パッケージ内容

- AudioFuse本体
- パワーサプライ + 海外用変換アダプター付属
- USBケーブル
- 2x MIDIアダプター
- ユーザーマニュアル
- レジストレーション・カード (シリアル&アンロック・コード)
- DiscretePro® 証明書

DiscretePRO® 証明書

AudioFuseには、DiscretePRO®テクノロジーを採用した2基のプリアンプが搭載されており、レコーディング時に最高のオーディオ・クオリティを保証します。AudioFuseはその独特なパフォーマンスの保証として独自のオーディオ精度証明書が付属しています。



製品登録を行うことでより詳細なバージョンを確認することが可能です。 www.arturia.com/register

AudioFuseを登録する

AudioFuseの製品登録をすると、次のようなメリットがあります：

- 続々とタイトルが増えているAudioFuse Creative Suiteのフリーライセンスを入手できます。これは、楽曲制作により多彩な彩りをプラスできるソフトウェアエフェクトやインストルメントのパッケージです。
- AudioFuseの設定などが簡単に行えるAudioFuse Control Centerソフトウェアの最新版を入手できます。
- AudioFuseオーナー限定の特別オファーを受けられます。

AudioFuseソフトウェアにアクセスし、サポートに製品を登録するため、以下のURLにレジストレーション・カードをに書かれている内容を登録してください。 www.arturia.com/register



重要： www.arturia.com/audiosfuse-startで製品登録を行い、最新のファームウェアを確認、ユーザーガイド、AudioFuse Control Centerソフトウェア (AFCC) をダウンロードしてください。

製品の登録には、シリアル番号とアンロックコードが記載された登録カードが必要です。



2. ハードウェアの特長

2.1. 仕様

- 14入力、14出力チャンネル
- 4アナログ入力 2x マイク/インストゥルメント/ライン
- 2xフォノ/ライン
- 4アナログ出力
- 2アナログ・インサート
- ADAT入出力
- SPDIF入出力
- ワードクロック入出力
- MIDI入出力
- 3ポートUSBハブ
- 2マイクプリアンプ
- 24ビット 最大192kHzのサンプルレートに対応した最新世代のAD/DAコンバーター
- 2フォノRIAAプリアンプ
- トークバック機能用内蔵マイク
- A/Bスピーカー・スイッチ
- ダイレクト・モニタリング
- セパレート・マスター&モニターミックス・チャンネル
- USBインターフェイス (PC、Mac、iOS、Android対応)
- アルミシャーシ、レザートップ

ライン/インストゥルメント入力	
ライン入力インピーダンス	20kオーム (対称)、10kオーム (非対称)
インストゥルメント入力インピーダンス	1.1Mオーム (非対称)
周波数特性 20Hz/20kHz	< +/- 0.08dB
インストゥルメント最大入力レベル	+18dBu
最大入力レベル	+24dBu

マイクプリアンプ	
入力インピーダンス	4kオーム
等価入力ノイズ (E.I.N.) @ 72dBゲイン	<-129.3dBu (A-ウェイト)
周波数特性 20Hz/20kHz	< +/- 0.08dB
ゲインレンジ	3dB~72dB

インサート	
出力インピーダンス	<35オーム
入力インピーダンス	10kオーム (非対称)
最大出力レベル	+18dBu
名目入力レベル	+18dBu

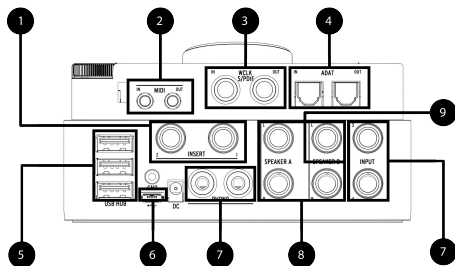
ライン入力 - デジタル	
THD+N	-101dB (A-ウェイト)
ダイナミックレンジ	106dB (A-ウェイト)

ライン出力	
出力インピーダンス	<120オーム
最大出力レベル	+24dBu
ダイナミックレンジ	119dB (A-ウェイト)
THD+N	-104dB (A-ウェイト)

クロック	
対応サンプルレート	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

2.2. について

2.2.1. バック・ビュー



1. インサート： デジタル変換前の信号経路にコンプレッサーなどの外部ラインレベルのデバイスを加えるために使用してください。

2. MIDI入出力： MIDIインストゥルメント、またはMIDI機器を接続してください。

3. ワードクロック & S/PDIF入出力： お好みのワードクロック機器とシンクさせるか、S/PDIFデジタル・オーディオ機器に接続してください。

4. ADAT入出力： 最大8チャンネルのデジタル入出力を備えたADAT機器に接続する場合に使用してください。

5. USBハブ： 3ポート・ハブを使用して、マスターキーボード、USBメモリー、ドングルを接続可能です。

6. USB接続： 付属のUSBダブル・ケーブルのみを使用してAudiofuseと接続してください。ほとんどの機能は、コンピューターから供給されるUSB電源で使用することができます。

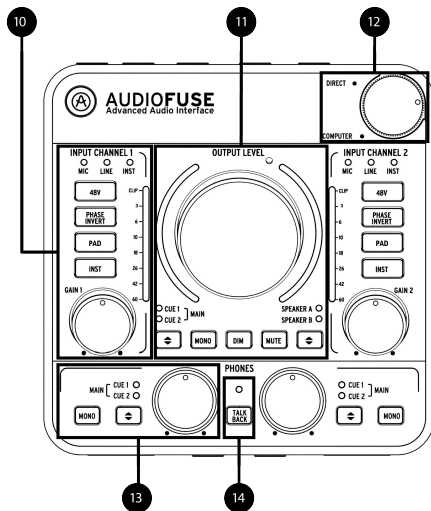
AudioFuseをコンピューター、タブレット、スマートフォンに接続します。

7. フォノ/ライン入力 3&4： 外付けのフォノ、ライン・デバイスをRCA+グラウンド、またはアンバランス1/4" 入口に接続してください。

8. スピーカー出力 A&B： バランス1/4"出力に2ペアのスピーカーを接続し、モニターすることが可能です。

9. リアンプ出力： この出力は、インピーダンスを変更することができ、レコーディングしたドライ・ギターや、ベーストラックをアンプに送り直した後にレコーディングすることが可能です。

2.2.2. トップ・ビュー



10. 入力コントロール・セクション 1&2: アナログ入力1&2の各機能へのダイレクトアクセス：VUメーター付き入力ゲイン、トゥルー48V、フェイズインバート、-20dBパッド、インストゥルメント・モード。

11. 出力コントロール・セクション: 各アナログ出力機能へのダイレクトアクセス：VUメーター付き出力レベル、オーディオミックスの選択、モノモード、出力DIM、ミュート、スピーカーA/Bセレクション。

12. ダイレクト・モニタリング： レコーディングした信号とミックスをレイテンシー無くブレンドすることが可能です。

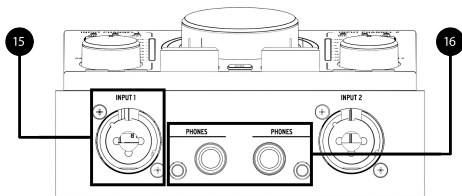
13. フォンコントロール・セクション 1&2： フォン1&2の各機能へのダイレクトアクセス：出力レベル、モノラル・モード、オーディオミックス・セレクト。

14. トークバック： ブースや別の部屋にいるアーティストに指示を与えるためにボタンを使用してください。内蔵マイクでトークバック機能を使用することが可能です。



トークバックは96kHzまでのサンプルレートでのみ機能します。

2.2.3. フロント・ビュー



15. 入力チャンネル 1&2： 2系統のXLR/バランス1/4" コンポ入力に、マイク、楽器、ライン・デバイスを接続することができます。

16. フォン出力チャンネル 1&2： AudioFuseには、1/4"と1/8"のコネクタが搭載されているので、どのようなタイプのフォン・プラグでも接続可能です。

3. はじめに

3.1. 電源を入れる

AudioFuseの電源は、付属のパワーサプライ (18V, 1.66A) を本体のDC電源コネクタに接続できるほか、コンピュータのUSBポートから十分な電力が供給できる場合はUSBバスパワーも使用できます。

AudioFuse Control Centerソフトウェアでは、StandardとFull Powerの2つの電源モードを選択できます。

デフォルト設定はStandardモードです。Full Powerモードを使用する場合は、付属のパワーサプライをご使用ください。Full Powerモードでは、放送局グレードの最大出力レベル (+24dBu) で使用でき、AudioFuseのUSBハブに最大1Aの電源を供給できます。

2つのモードと使用電源による機能の違いは、下表の通りです：

Standardモード	Standardモード	Full Powerモード
バスパワー (パワーサプライ不使用)	パワーサプライ使用	パワーサプライ必須
最大入力レベル：+18dBu	最大入力レベル：+18dBu	最大入力レベル：+24dBu
最大出力レベル：+18dBu	最大出力レベル：+18dBu	最大出力レベル：+24dBu
USB hub: USBハブ：全ポート合計で最大100mA	USBハブ：各ポートで1A	USBハブ：各ポートで1A

コンピュータの機種によってはUSBポートの電源供給に制限があるものもありますので、インプットチャンネルで+48Vファンタム電源を使用される際は、付属のパワーサプライをご使用ください。

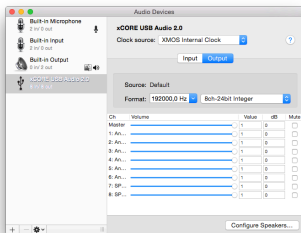
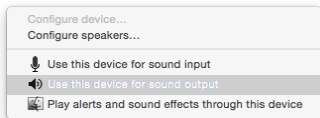
3.2. オペレーティングシステムの設定

3.2.1. Macintoshでのセットアップ

AudioFuseをUSBポートに接続すると、すぐにAudio MIDI設定にAudioFuseが表示されます。

デフォルトのデバイスとして設定するには：

- Audio MIDI設定の左側のパネルでそれを選択、
- 次に“デフォルトの出力/入力デバイスとして設定”を選択してください。



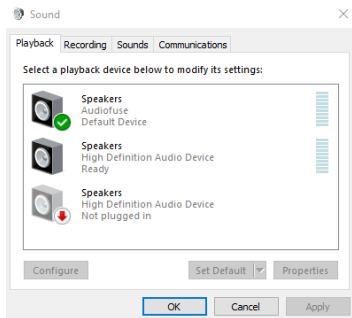
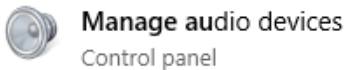
3.2.2. Windowsでのセットアップ

Windows上での低レイテンシー・ドライバーは、Arturiaによって提供され、AudioFuse Control Center インストーラーによって自動的にインストールされます。

下記URLからダウンロード可能です。 : www.arturia.com/audiofuse-start

れがインストールされたら、AudioFuseをUSBポートに接続するだけで自動的に オーディオデバイスに表示されます。

“Manage Audio Device”を開いてください。



デフォルトの再生（録音）デバイスとして設定するには再生（録音）タブでAudioFuseを選択し、既定値に設定をクリックしてください。

3.2.3. iPad/iPhoneでのセットアップ

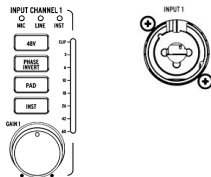
AudioFuseにDCアダプターを接続（必須）し、iPad/iPhoneにカメラコネクション・キットを接続してください。デバイスが、設定>一般>情報に表示されます。互換性についての詳細は、以下のURLを参照してください。 www.arturia.com/audiofuse-start

3.2.4. Androidでのセットアップ

AudioFuseにDCアダプターを接続（必須）し、Androidデバイスに On-The-Goケーブル（USB Aメス - USB Bマイクロ）を接続してください。Android 5+が必須です。互換性の詳細については、以下のURLを参照してください。 www.arturia.com/audiofuse-start

3.3. 入力と出力

3.3.1. 入力1 & 2



AudioFuseは、マイクとライン/インストゥルメント 入力用の2つのパラレル・プリアンプを備えています。

入力チャンネル1と2は、インターフェイス上のマイク プリアンプのコントロールをすべて使用することができます。

- **48V** : ファンタム電源のオン/オフ
- **フェイズインバート** : 複数のマイクを使用してレコーディングする際に信号の極性を反転させる
- **PAD** : ヘッドルーム用の20dBパッド。マイクが接続されている場合、PADスイッチを1回押すとマイク信号に“ブースト”が追加されます。もう一度押すと、-20dbのパッドがマイクに適用されます。

i !: PADブースト機能を使用すると、Sure® SM7Bなど出力が微弱なマイクもシグナルブースター不要で十分なゲインが得られます。こうした機能はオーディオインターフェイスでは非常にユニークなもので、Arturia独自のDiscretePro®プリアンプならではの機能だと言えます。

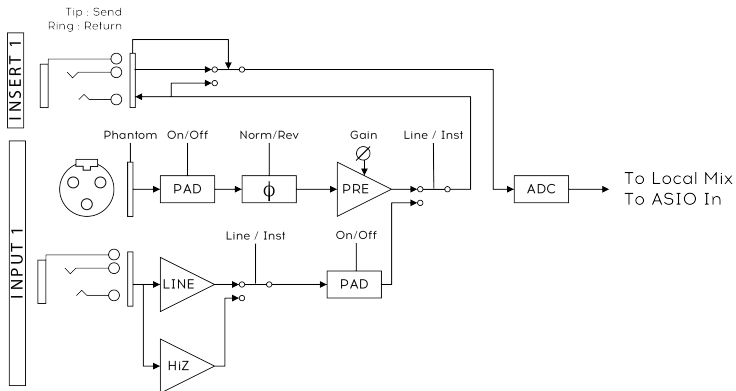
- **INST** : ラインからインストゥルメント・レベルへとインピーダンスを切替え
- **GAIN** : DiscretePro®プリアンプのアナログゲインを+2~+70dBの間でコントロール
- **ピークホールド付き -60dBクリップLEDメーター**

XLR/TRSジャック・コンビコネクタは、どのコネクタを使用しているか自動的に検出します。

XLRコネクタを使用する場合、入力タイプは、自動的にマイクを選択します。 そうでない場合、ライン/インスト入力が入力可能になり、インスト・ボタンで入力を切り替えることができます。



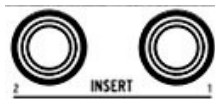
ファンタム電源に関する注意：ファンタム電源の定格はチャンネルあたり14mAです。



入力チャンネル1&2の信号経路

3.3.2. インサート 1 & 2

AudioFuseの背面には、2基のTRSジャック（ティップ=センド、リング=レシーブ）によるインサートセクションがあります。これらは、コンバーターの前に入力1と2のDiscretePRO®プリアンプの直後にお好みのプロセッシングユニットをインサートするために使用できます。使用しない場合、これらのコネクタにパッチを当てる必要はありません。



インサートは、ライン・レベルで動作しています。（0 dBFSの場合は+18 dBu）

i ヒント：モノラルジャック・ケーブルをインサートプラグに挿すことで、（ラインレベルのプリアンプをバイパスし）入力信号をコンバーターに直接送ることも可能です。

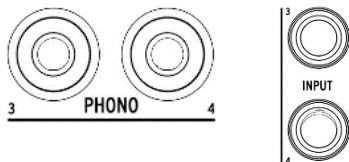
3.3.3. 入力3&4

AudioFuseには、フォノ3、4とラベルされた2系統の追加ライン入力 があります。デフォルトでは、ライン入力3と4が選択されています。

ライン入力時は 20dB/パッドが使用でき、AudioFuse Control Centerで オン/オフ可能です。

ライン入力で使用する場合、AudioFuse Control Centerで入力3を“INST”モードに切り替えることが可能です。

フォノ入力は、AudioFuse Control Centerからで有効にすることができます。

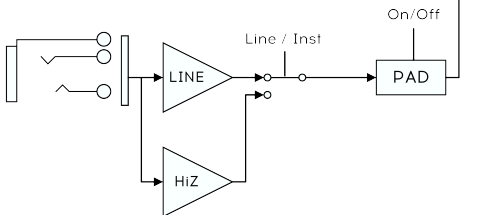


ライン入力とフォノ入力を同時に使用することはできません。

PHONO 3



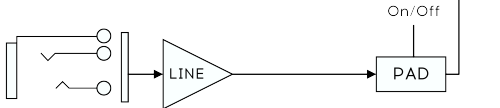
INPUT 3



PHONO 4



INPUT 4

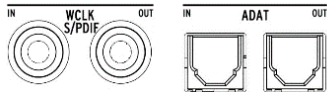


入力チャンネル3&4の信号経路

3.3.4. デジタル入力

AudioFuseはS/PDIF、またはADATで最大8つのデジタル入力を提供します。

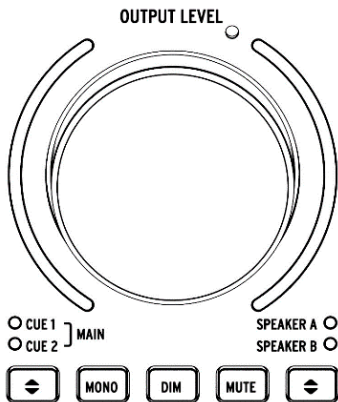
AudioFuse Control Center を使用してADATとS/PDIFを切り替えることができます。



3.3.5. メイン出力

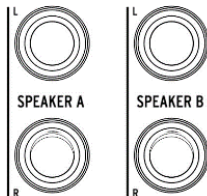
AudioFuseには、3系統のアナログ・ステレオ出力があります。：フォン1/フォン2/スピーカーA/スピーカーB

これらのそれぞれをインターフェイスで使用できるセクターによって マスター、またはキューバスを聞くか選択することができます。



出力レベルセクションには、様々な設定があります。：

- **CUE** : セレクターを使用して確認する出力バスを切り替可能
- **MONO** : ステレオペアをモノラルにミックスダウンします。モノでミックスチェックをする必要がある場合に使用可能
- **DIM** : 出力レベルを20dB減衰。DIM設定は、Audiofuse Control Centerで設定可能
- **Mute**
- **Speaker A/B** 2系統のスピーカーを切替可能
- **OUTPUT LEVEL** : 出力レベル・ノブ



スピーカーB出力からフォン2を送信可能な特別な機能があります（下記のフォン出力を参照してください）。この機能はスピーカーA/B機能が無効になります。

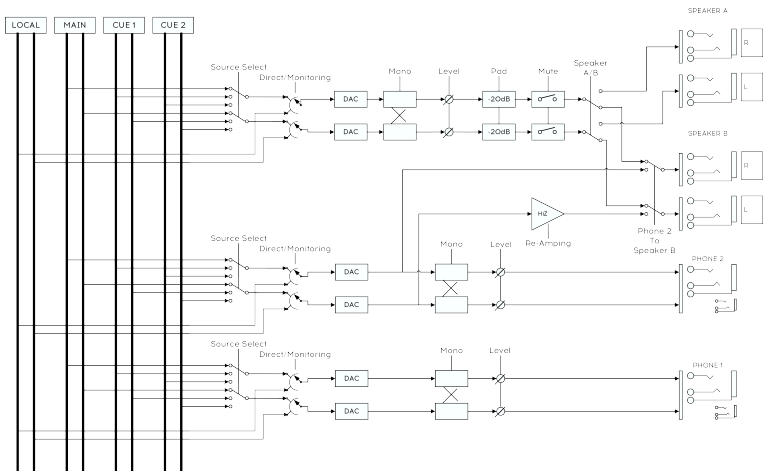
3.3.6. フォン出力

フォン出力は、メイン出力に似ています。ソースを選択してモノにミックスダウンすることができます。

フォン2出力には、2次機能があり、スピーカーB出力に送ることができます。AudioFuse control Centerの“Phone 2 to Speaker B”機能を有効にするか、スピーカーA/Bセレクターを5秒間押し続け、フォン2の信号をスピーカーB出力に送ります。

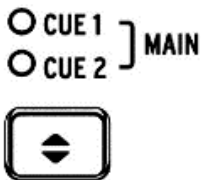
この場合、スピーカー出力として自動的にスピーカーAが選択されます。

その後、スピーカーBの左出力でリアンプ機能を使用することができます（後述の“リアンプ”を参照してください）。

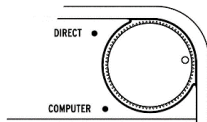


3.4. ミキサーとルーティング

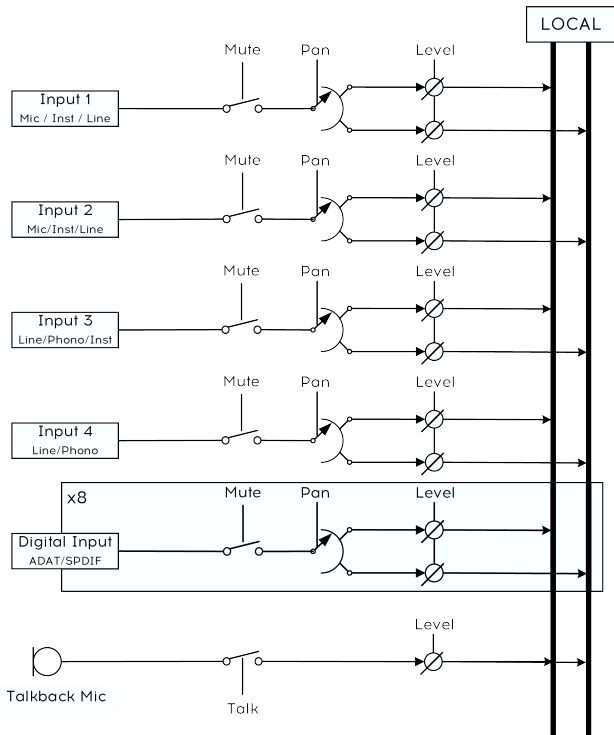
AudioFuseは、3系統の出力バスを提供します。：メイン、キュー1、キュー2、そして1つの内部ミックス・バス。これら3種類の出力バスは、オーディオドライバで使用可能です。各出力は、デバイス上のセクターを使用して、これらのバスのいずれかから供給されます。ボタンを押すことでルーティングを切替可能です。



選択したバスに直接モニタリングを加えるには、AudioFuse Control Centerの出力でローカル・モニタリングを有効にし、ダイレクト/コンピューター ミックスノブを回してダイレクト出力とコンピューター出力の量（バランス）を調整してください。



ローカルモニタリングバス・ミックスは、AudioFuse Control Centerで設定します。各物理的の入力をバスに加え、レベルとパンを調整、ミュートやソロを選択することができます。



3.5. USBオーディオ・マッピング

お使いのコンピューターでは、最大14入力、14出力を使用可能です。

入力	コンピューター	コンピューター	アウトプット
Input 1: MIC / LINE / INST	IN 1	OUT 1	MAIN L
Input 2: MIC / LINE / INST	IN 2	OUT 2	MAIN R
Input 3: LINE / PHONO / INST	IN 3	OUT 3	CUE 1 L
Input 4: LINE / PHONO	IN 4	OUT 4	CUE 1 R
Talkback MIC	IN 5	OUT 5	CUE 2 L
Talkback MIC	IN 6	OUT 6	CUE 2 R
ADAT 1 / SPDIF L	IN 7	OUT 7	ADAT 1 / SPDIF L
ADAT 2 / SPDIF R	IN 8	OUT 8	ADAT 2 / SPDIF R
ADAT 3	IN 9	OUT 9	ADAT 3
ADAT 4	IN 10	OUT 10	ADAT 4
ADAT 5	IN 11	OUT 11	ADAT 5
ADAT 6	IN 12	OUT 12	ADAT 6
ADAT 7	IN 13	OUT 13	ADAT 7
ADAT 8	IN 14	OUT 14	ADAT 8

3.6. クロック・シンクロナイゼーション

Audiofuseは、独自の内部クロックで動作するか、外部ソースとシンクさせることができます。

Audiofuseの内部クロックは非常に安定しており、ほとんどの状況で最高の性能を発揮します。Audiofuseのクロックから周辺機器を動作させるオプションがある場合は、この方法を採用してください。

シンク・ソースを変更するには、Audiofuse Control Centerソフトウェアを使用してください。

左上のセッティング・ヘッダーの下にクロック・ソースのオプションが表示されます。EXTERNALに設定すると入力シンク・オプションは以下ようになります。：

- Word Clock - リアパネルのRCA入力を使用する
- S/PDIF Coax - リアパネルのRCA入力を使用する
- S/PDIF optical - ADAT INオプティカル・コネクタを使用する
- ADAT - ADAT INオプティカル・コネクタを使用する

96kHzはADATの最大サンプルレートです。Audio Fuseの内部クロックは、DAW、オーディオデバイスの設定、またはAudioFuse Control Centerで44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4kHz、192 kHzに設定することができます。

ワードクロック入力を使用する場合、入力をターミネートする必要があります。Audiofuse Control Centerのプリファレンスを開き、入力のオプションとして“NONE”または“75 OHM”のいずれかを選択してください。

Audiofuseを他のデバイスのマスタークロックとして使用するには、デジタルアウト・セクションの設定を使用して送信するタイプを選択してください。

クロック出力のオプションは：

- ワードクロック
- S/PDIF
- ADAT

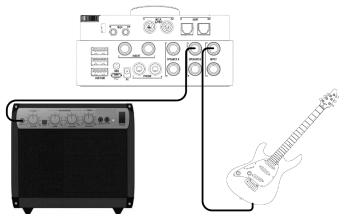
外部クロックをマスター・クロックとして選択した場合、内部クロックは同じ、または“multiple”、 “divided”レートのサンプルレートとして設定する必要があります。

3.7. リアンピング

AudioFuse は、優れたリアンプ機能を備えています。リアンプ は逆D - Iとも呼ばれ、アンプでダイレクトにギタートラックを再生するために使用することができます。そしてアンプからのサウンドを再度録音することが可能です。

これを行うには、ダイレクトにレコーディングしたギタートラックが必要です。

AudioFuse Control CenterでRe-Amping機能を有効にするには、“FROM PHONE 2”スイッチを押してから“REAMPING”スイッチを押してください。必要に応じて、“GROUND LIFT”スイッチを使用してください。詳細については、Audiofuse Control Centerのオンラインマニュアルを参照してください。



3.8. トークバック

AudioFuseに内蔵されたシンプルなマイクは、 トークバック・ボタンを押してトークバック機能を有効にすることができます。



トークバックは、96kHzまでのサンプルレートのみで機能します。

あなたの声は、コンピューターの入力5と6で送信され、スピーカー、フォン1 フォン2の物理的出力に混在させることができます。

トークバックのレベルと出力の選択は、AudioFuse Control Centerで設定することができます。

3.9. MIDIインターフェイス

MIDI InとMIDI Outインターフェイスは、AudioFuseの背面にあります。 DINアダプターは、パッケージに付属しています。

AudioFuse ドライバーがインストールされるとMIDIポートがコンピューターで 使用可能になります。

3.10. AudioFuse Control Center

最新のAudioFuse Control Centerは以下のURLからダウンロード可能です。
www.arturia.com/audiofuse-start

このアプリケーションでは、AudioFuseデバイスで直接アクセスして いないすべての特別な機能を管理することができます。



これらには、

- 入力3 & 4セレクション
- デジタル入力の設定を変更
- クロックとシンクの設定
- ファームウェアのアップデート
- モニターミックスの変更

このソフトウェアは、Windows 7以降、Mac OSX 10.8以降と互換性があります。

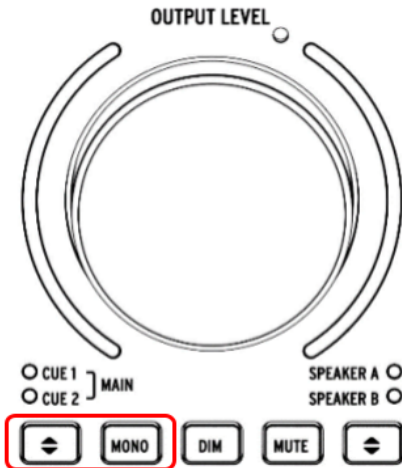
このソフトウェアを使用するには、AudioFuseを接続する必要があります。

3.11. スイッチ

Arturiaスイッチを押すと接続しているコンピューターの AudioFuse Control Centerが自動的に起動します。



3.12. 工場出荷時の設定にリセットする

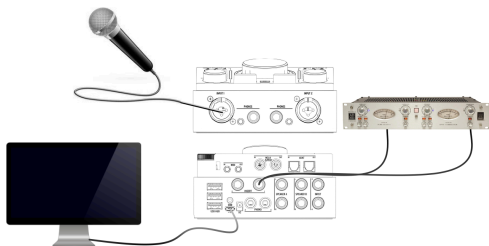


AudioFuseを工場出荷時の設定にリセットするには、スピーカーCUEセレクターとMONOボタンを押しながらAudioFuseの電源を入れます（コンピュータとUSBケーブルで接続するか、パワーサプライを接続します）。AudioFuseのファームウェアをアップデートした後に、この作業をされることをお勧めします。

4. AUDIOFUSEを使用する

4.1. インサートに外部エフェクトを使用する

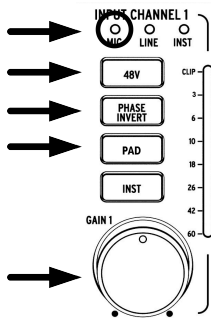
マイクを使ってレコーディングする前に、外部エフェクト・プロセッサを使用することができます。



4.2. マイクを使用したレコーディング

マイクでレコーディングする必要がある場合は、フロントの入力1、入力2を使用してください。

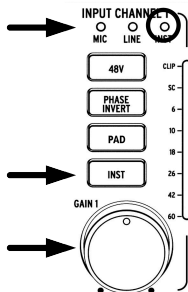
1. マイクをXLR端子に接続してください。
2. AudioFuseは、マイク入力を使用されていることを自動検出します。
3. ゲインと（必要な場合）ファンタム電源の設定を行ってください。



4.3. ギターやその他の楽器のレコーディング

ギターやシンセのような楽器をレコーディングする場合、フロントの入力1, 入力2を使用してください。

1. TRSジャック、または標準的なTSジャックを使用して楽器を接続してください。
2. AudioFuseはライン入力、またはインストゥルメント入力のいずれかが使用されていることを自動検出し、入力セクションの“Inst”ボタンを押して、“Inst”入力モードを点灯させてください。

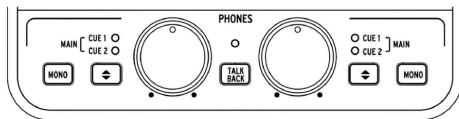


入力3は、AudioFuse Control Centerで同様に使用することができます。

4.4. フォンの1つをキューに、1つをメインに使用する

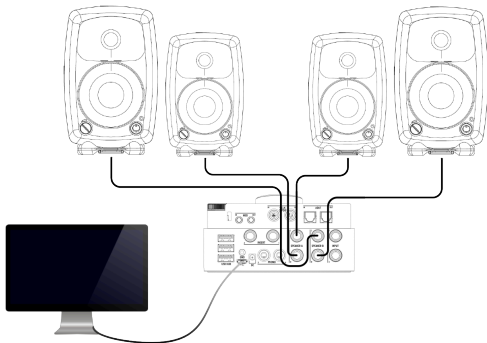
2系統のヘッドフォンを使用し、それぞれを使用して様々なミックスを聴くことができます。

ヘッドフォン・プラグの上にあるメイン/キューバス・セレクターを使用して聞きたいミックスを設定してください。



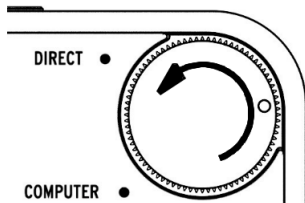
4.5. 2組のスピーカーを切替えて使用する

AudioFuseのスピーカーA/スピーカーB機能を使用すると、2組の異なるスピーカー間でマスター出力を簡単に切り替えることができます。これにより、素早く異なるモニターでミックスを確認することができます。



4.6. コンピューター無しでAudioFuseを使用する

AudioFuseは、スタンドアローン（コンピューターを使用せず）で ミキシング・ユニットとして動作します。



操作手順：

1. 入力をアナログ入力1~4とADAT等のデジタル入力に接続してください。
2. 出力を接続してください。
3. AudioFuseをコンピューターに接続してください。
4. AudioFuse Control Centerで出力するミックスを設定してください。
5. AudioFuse右側にあるダイレクトモニター・ノブを“Direct”側に設定してください。

これでコンピューターのプラグを抜くことができます。設定したミックスの設定は、コンピューターを使用せずに動作します

設定は、AudioFuse本体に保存されます。

技術情報

詳細については、以下のURLを参照してください。

www.arturia.com/audiofuse-start

5. ソフトウェア使用許諾契約書

ライセンス料金（あなたが支払った金額の一部）を考慮し、Arturiaはライセンサーとしてあなた（被ライセンサー）にAudioFuse Control Centerソフトウェア（以下、ソフトウェア）のコピーを使用する非独占的な権利を与えます。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、Arturia SA（以下、Arturia）に帰属します。Arturiaは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としてプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアによるレジストレーションの後、使用可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下のテキストをお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。Arturiaはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、Arturiaへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用に興味を持たないものとします。Arturiaは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション Arturiaは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンスをコントロールしOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。

このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。セクション11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、アップデート 製品登録後は、以下の サポートアップグレード、アップデートを受けることができます。サポートは新バージョン発表後1年間、前バージョンのサポートを提供します。Arturiaは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の性質をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に調整することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メールアドレス、ライセンスデータなど）に同意するよう求められます。Arturiaは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 お客様は、常に1台のコンピューターで使用することを前提として、一時的に別のコンピューターにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピューターに、ソフトウェアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウェアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウェアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイル、翻訳などを行うことはできません。

6. 権利の譲渡 本ソフトウェアを使用するためのお客様のすべての権利を(a)第三者に割り当てる場合、(i)本契約と(ii)本ソフトウェアに付属のソフトウェア、またはハードウェア（すべてのコピー、アップグレード、バックアップコピー、および本ソフトウェアのアップデート、アップグレードの権利を付与された旧バージョンを含む）(b)このソフトウェアのアップデート、アップグレード、バックアップコピー、及び以前のバージョンを保持せず(c)受領者は、本契約お条項、及び有効なソフトウェアライセンスを取得するためのその他の規則に同意するものとします。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返品権利の譲渡後、製品をアクティベーションすることがあってはなりません。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、及びアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョン、または下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョン、下位バージョンを転送した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレード、及び最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョン、及び下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 Arturiaは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。Arturiaは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 Arturiaが提供する補償はArturiaの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、Arturiaにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間どちらが長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。Arturiaまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害補償の制限 Arturiaは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、Arturiaが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

6. DECLARATION OF CONFORMITY

USA

Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

IMPORTANT: When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product **MUST** be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

NOTE: This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
- Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
- In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
- If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply **ONLY** to those products distributed in the USA.

CANADA

NOTICE: This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

EUROPE



This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC

This product may not work correctly by the influence of electro-static discharge; if it happens, simply restart the product.